

樹木には、樹高の高い^{こうぼく}高木や、高木よりやや低い^{あこうぼく}亜高木、成長してもその高さが亜高木には達しない^{ていぼく}低木が見られる。また、葉の形から^{こう}広葉樹と^{しんようじゆ}針葉樹に、冬季や乾季に落葉するかどう

5 かで^{らくようじゆ}落葉樹と^{じょうりよくじゆ}常緑樹に分けることができる。なお、日本を含む東アジアの暖温帯に見られる、厚くてつやのある葉をもつ常緑広葉樹を^{しょうりよくじゆ}照葉樹という。

また、木に巻きついて成長する^{つる}植物、木

10 などに着生する^{ちやくせいしよくぶつ}着生植物などが見られる。

冬のように生育しにくい期間をどのように過ごすかという点から、冬芽とよばれる芽に着目して、生活形を見ることもできる。常緑で枝の先に冬芽をもつヤブツバキ、落葉した枝に冬芽

15 をつけるケヤキ、地上部は枯れて地表付近に冬芽をもつミヤギノハギ、地上部がすべて枯れてしまい地下部に冬芽をもつアマドコロなど、さまざまな生活形が見られる(図5)。



図4 一年生植物(左、エノコログサ)と多年生植物(右、カタクリ)の地下部の比較 エノコログサは細い根だけをもつ。カタクリはりん茎をもち、そこに養分を貯蔵する。

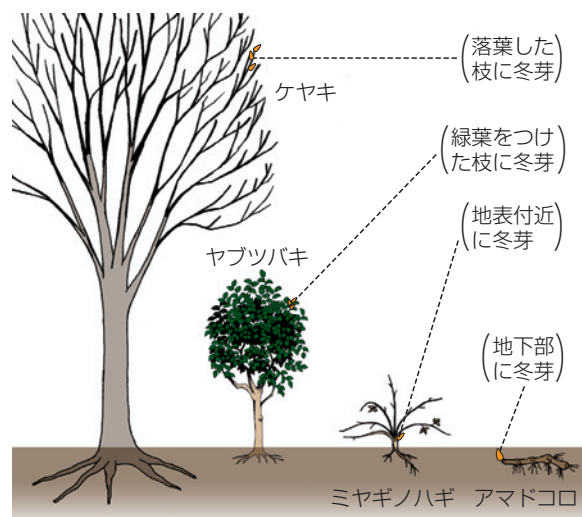


図5 植物のいろいろな冬の過ごし方

●●コラム

マングローブの生活形とその役割

熱帯および亜熱帯の海岸や河口の^{かこう あさせ}浅瀬には、マングローブとよばれる常緑低木または常緑高木の植生が発達することがある。日本では沖縄などでマングローブが見られる。マングローブを構成する植物の中には、メヒルギやオヒルギのように地中から呼吸

20 根を出す生活形をもつものがある。泥中の根には^{こきゅう}通気組織が発達し、呼吸根を使って大気中から必要な酸素の一部を取り込んでいる。



マングローブのようす(沖縄県) 多数の呼吸根が見られる。写真の樹木はヤエヤマヒルギである。